

# 荷電粒子管理運営委員会

1994年度 第1回 議事録

日時 : 1994年4月15日(金)午後6時30分～8時  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、大西、千葉、能登、岡部、吉田、向井  
欠席者 : 片山(在外)

## I. 報告

- 千葉 : 1992年度にコーディングしたデータをEXFORに変換して、IAEAに送った。  
インデックスデータをNACISISに送った。
- 吉田 : 1993年度の作業進捗状況は、コーディング55編完了。  
核データ専用の封筒ができたので、以後これを使用する。  
1994年度は、Nuclear Data Sheet からデータを探って5月位からコーディングを始めることが出来るようにしたい。  
既にNRDFに登録済みのデータのうち、90年度以降に発表された論文のデータの著者に、登録されている旨とNRDFからの出力例を報告する予定である。
- 加藤 : 原子核談話会で、データ送付のお願いとNRDFの宣伝をした。  
また、助言委員の原子核談話会からの推薦をしてもらいたい旨も述べた。  
文部省に、1993年度の活動報告をする予定である。

## II. 討論

- [1] 今年度のデータの早期収集について  
80年度以前の雑誌に載っているデータを集めることになった。  
CINDA (Computer Index of Neutron Data)、Annual Report、Nuclear Data Sheet から、著者を手掛りにして集めることにする。
- [2] 登録済みデータの著者チェックについて  
90年度以降に発表された論文のデータについて、  
・登録されている旨を著者に報告する、  
・データの内容若しくは形式について意見を聞く、  
・今後のデータ送付の依頼をする、  
こととなった。

[3] 今年度のコーディング作業の依頼について  
手塚、青木、小池（貴）、奈良の各氏には、今年度も引き続き  
お願いする。青山氏（北大）は、本人の同意があれば依頼する。

[4] 今年度の助言委員について  
助言委員の確認と補充の議論を行った。

Ⅲ. 次回の運営委員会は、1994年5月20日（金）午後6時～

# 荷電粒子管理運営委員会

## 1994年度 第2回 議事録

日時 : 1994年5月20日(金)午後7時～8時  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、大西、岡部、千葉、能登、吉田、向井  
欠席者 : 片山(在外)

### I. 報告

加藤 : 4月25日、文部省に年次報告書を持って行った。  
千葉 : パリ会議の報告。核データの大勢はボックスになりつつある。  
今後、IAEAとEUが世界の中心となるべきだ、という意見が  
だされ、体制作りのため我々のグループの責任(目標)を7月  
までに送る必要がある。  
片山から年次報告書の要求があった。菊池氏から核データ  
センターのリストラクチャーについて話をしたい、と打診があった。  
吉田 : 年次報告書を発送した。

### II. 討論

[1] IAEAにおけるNRDFの役割について  
7月中旬までに報告書を提出する。  
千葉、加藤、片山で原案を検討する。

III. 次回の運営委員会は、1994年6月17日(金)午後6時～

# 荷電粒子管理運営委員会

1994年度 第3,4回 議事録

日時 : 1994年7月15日(金)午後6時30分～8時30分  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、大西、岡部、千葉、能登、吉田、向井  
欠席者 : 片山(在外)

## I. 報告

- 向井 : 昨年度のデータのマージ作業は夏休み中に行う予定。
- 加藤 : シグマ委員会で一年間の活動の報告を行った。シグマ委員会のメンバーからアニュアルレポートを送って欲しいという要望があった。また、北大大型計算機センターにあるNRDFデータベースを外部から自由に利用できるようにして欲しいという要望もあった。菊池氏より、核データの国際会議の報告があった。原子力学会が9月28日～30日北大で開催される予定。  
物理学会の核実験グループの世話人から荷電粒子核反応グループからも講演をして欲しいという、依頼があった。  
核データ研究会が11月17日に原研で開催される予定。  
「核データニュース」(原研発行)にNRDF利用のための解説を投稿して欲しいという、要望があった。原稿の締切りは9月12日。
- 能登 : 索引辞書の作成作業を再開した。
- 千葉 : IAEA核データ会議(パリ)の議事録のドラフトが来ている。修正要求は1ヵ月以内。
- 吉田 : 青山氏(北大)は、9月よりコーディング作業に参加する予定。手塚氏にコーディングマニュアルの改版を依頼した。  
90年度以降の収集論文の著者にデータを送る予定。

## II. 討論

- [1] 北大計算機センターにあるNRDFデータベースの外部からの利用について  
将来ワークステーションからの利用も可能にするために、データベースに関する調査を行うことになった。
- [2] 核研・核物理センターでの状況について  
各センターでのNRDFデータベースがどのように利用されているか、どのように保守してゆくべきか、を調査することとなった。

III. 次回の運営委員会は、1994年8月22日(月)午前10時～

# 荷電粒子管理運営委員会

1994年度 第5回 議事録

日時 : 1994年8月22日(月)午前10時～11時  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、千葉、大西、吉田  
欠席者 : 岡部、能登、向井、片山(在外)

## I. 報告

- 千葉 : 1. IAEAのセンター長会議の日程の案内が送られてきた。  
1994年10月31日～11月1日(ウィーン)  
2. IAEAのパリの会議の議事録に対して以下の3点についてコメントした。  
・我々のグループの略称については、JCPRGで統一してほしい。  
・我々のグループのアクティビティについて「我々のグループは角分布を含むあらゆる種類のデータを収集している」としてほしい。  
3. 1994年入力データをCPND fileに登録してほしい。

- 吉田 : 1. 90年度以降の収集論文の著者にデータを送る件について現在送付可能な論文は、24人33編で今週中に発送の予定。  
2. 新しいコーディングマニュアル作成についてコーディング者に実際の作業で困っている点や判断が難しい点などをリストアップしてもらい、これを次回の運営委員会で検討をしたあとに手塚氏に送ってマニュアル作成の参考にしてもらう。

## II. 討論

- [1] IAEAのセンター長会議の出席について  
・加藤から「この日程では出席が不可能」とのfaxを送る。  
・検討が必要な事項について事前にアナウンスしてほしい旨伝える。当日はオブザーバーとして片山が出席をすることを検討する。

- [2] EXFORへの変換時の問題について  
・EXFORとNRDFが変換コードの作り方が違うために起こる問題について加藤と千葉が具体的データにあたって検討していくこととなった。

III. 次回の運営委員会は、9月9日22(木)6時30分

# 荷電粒子管理運営委員会

## 1994年度 第6回 議事録

日時 : 1994年9月22日(金)午後7時～9時  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、大西、岡部、能登、吉田、向井  
欠席者 : 片山(在外)、千葉

### I. 報告

- 大西 : RCNPにNRDFの現状を問い合わせたところ、計算機の変更に伴い、NRDFデータベースがインストールされておらず、現在利用できないとのこと。  
核研には、問い合わせ中。
- 加藤 : 千葉より、EXFORへの変換時の問題を検討中であること、昨年度のデータを早急に登録して欲しいこと、の伝言があった。
- 吉田 : 90年度以降の収集論文の著者に対し、32編の論文に関するデータを送った。

### II. 討論

- [1] コーディング者用マニュアルの詳細について  
手塚氏から出されている質問について、コーディング者と、加藤、能登、千葉で詳細を検討して原案を作成することとなった。

III. 次回の運営委員会は、1994年10月21日(金)午後6時～

# 荷電粒子管理運営委員会

1994年度 第7回 議事録

日時 : 1994年10月21日(金)午後6時30分～8時  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、岡部、千葉、能登、吉田、向井  
欠席者 : 片山(在外)、大西

## I. 報告

- 千葉 : IAEAに91年度に登録されたデータを送った。92年度のデータについても、近日中に送る予定。
- 能登 : コーディング者用辞書について、項目名に対する項目値の一覧を物理量(PHQ)の分類について試作した。
- 加藤 : ・秋の学会で荷電粒子核反応グループの活動報告を行なった。  
・今年度の核データ研究会に出席出来ないので、出席出来る人がいたら代わって欲しい。  
・荷電粒子核反応データベース研究のための科研費申請を行った。  
・IAEAセンター長会議(ウィーン)に出席出来ないので、書面にて Status Report を提出することにした。
- 向井 : 93年度収集のデータは、11月末までに登録する予定。

## II. 討論

- [1] IAEAセンター長会議に提出する書面について  
提出する書面の原案が加藤から出され、承認された。  
今後、IAEAセンター長会議には、代表者として田中(委員長)もしくは、加藤(Contact Person)が出席することとなった。

III. 次回の運営委員会は、1994年11月25日(金)午後6時～

# 荷電粒子管理運営委員会

1994年度 第8回 議事録

日時 : 1994年11月25日(金)午後6時~7時30分  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、岡部、大西、能登、吉田、向井  
欠席者 : 片山(在外)、千葉

## I. 報告

加藤 : 今年度の原研の核データ研究会には都合がつかず、欠席する。  
IAEAに、核データネットワークについてのレポートを提出した。IAEAセンター長会議の議事録が来ている。意見の提出は、1月10日が締め切りである。

能登 : コーディング者用辞書について、以下の項目名に対する索引を作成する; 加速器、測定器、分析方法、反応の型。

吉田 : 今年度のデータ集録の進捗状況は、コーディング終了が20編。

## II. 討論

### [1] IAEAセンター長会議の議事録について

加藤からIAEAセンター長会議の議事録の紹介があり、これに対する本運営委員会の意見については、加藤、千葉、能登の一任することとなった。

### [2] 1994年度年次報告書

巻頭言を誰に依頼するか、加藤に一任する。

本年度の主要な記事については、能登の「コーディング者用の辞書について」や、手塚氏の「コーディングマニュアルについて」などが考えられる。

原研の誰かに、荷電粒子核反応データについて、執筆依頼を打診する。

III. 次回の運営委員会は、1994年12月27日(火)午前10時30分~

# 荷電粒子管理運営委員会

1994年度 第9回 議事録

日時 : 1994年12月27日(火) 午前11時～12時  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、千葉、大西、能登、吉田、向井  
欠席者 : 片山(在外)、岡部

## I. 報告

吉田 : 板垣(北大)氏がコーディング作業に参加することになった。  
九大と原研からアニュアルレポートを送ってもらったので、  
データの採取が可能であるか調べる予定。

能登 : コーディング者用辞書を作成したので、コーディング作業  
者に配布を考えたい。

向井 : 昨年度のデータ登録作業の進捗状況を報告した。54編中23  
編がマージ作業終了。

## II. 討論

- [1] コーディング作業の為に望ましいユーザーインタフェースの構築  
意見交換の後、能登が第0次案を検討することとなった。
- [2] 1994年度年次報告書  
能登による「コーディング作業の為にユーザインタフェース」が  
まとまった場合、載せることとなった。  
千葉による「インテリジェントパッドによる新データ検索システ  
ム」を載せる。  
NRDFデータベースの簡易検索マニュアルを今年度以降、毎号に  
付けることとなった。

III. 次回の運営委員会は、1995年1月19日(木) 午後6時～

# 荷電粒子管理運営委員会

1994年度 第10回 議事録

日時 : 1995年1月19日(木) 午後6時15分～7時  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、岡部、大西、能登、吉田、向井  
欠席者 : 片山(在外)、千葉

## I. 報告

向井 : 昨年度のデータは、マージ作業終了。  
加藤 : IAEAネットワーク作りの合意書が届いた。  
原研のシンポジウムの報告書が届いた。  
巻頭言の執筆を菊池氏に依頼した。  
能登 : 「コーディング作業の為にインターフェース」を構築する為の、  
実際の作業を北星学園大学の学生に打診する。  
吉田 : 今年度のデータ収集状況は、28編がコーディング作業終了。  
今年度は70編の収集を目標にしている。

## II. 討論

- [1] 今年度の予算執行  
加藤より、データ収集専用のパーソナルコンピュータを1台購入したらどうか、という案が出され承認された。
- [2] 1994年度年次報告書  
掲載記事と執筆担当者を確認した。  
片山に担当してもらいたい記事、「世界における核データの認識(案)」が有るので、連絡を取る事となった。  
原稿の締め切りは、2月末日。
- [3] IAEAの合意書について  
本運営委員会の意見については、加藤、能登、田中、千葉に一任する。

III. 次回の運営委員会は、1995年2月23日(木) 午後6時～

# 荷電粒子管理運営委員会

1994年度 第11回 議事録

日時 : 1995年3月3日(金) 午後6時～  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室  
出席者 : 加藤、岡部、大西、能登、千葉、吉田、向井、平林(オブザーバー)  
欠席者 : 片山(在外)

## I. 報告

大西 : ワークステーション(nucl)へWWWをインストールし、利用できるようになった。  
加藤 : IAEA "Network Document"のスベルミス等修正をIAEAに伝えた。  
データ収集用のパーソナルコンピューター(PC-98 21Bf)を購入した。  
千葉 : EXFOR辞書で英小文字が使えるようになった。NRDF辞書についても検討が必要である。  
NNDC (Brookhaven)でRelativistic Heavy-Ionのデータをコンパイルすることを計画している。  
向井 : 昨年度入力データの登録作業を終了した。  
吉田 : データ収集作業の進行状態は、70編を収集予定しているところ現在36編終了した。そのデータ量はおよそ2MB。入力目標3MBに達成する努力を行なっている。

## II. 討論

- [1] 春物理学会時の助言委員会について  
主な議題として、1)最近のNRDFの活動と今後の活動について、2)国際核データネットワークについて、3)来年度の助言委員について、とする。また、助言委員会の構成について、任期を1年とし、データ生産機関・NRDF開発者・他の国内核データ機関から委員をお願いすることを今回の助言委員会にはかることとした。
- [2] 年次報告書について  
原稿未着のところを催促し、予定の期日に発行できるよう努力することとした。
- [3] イメージスキャナーの購入について  
データ収集者からデータ収集の為にイメージスキャナー購入希望が出ている。その性能・価格・利用の仕方について検討することとなった。

## III. 次回管理運営委員会

1995年4月6日(木) 午後6時～

1994年度NRDF助言委員会議事録

1. 日時； 1995年3月28日（火）12:30-13:45
2. 場所； 神奈川大学横浜キャンパス（物理学会T会場）
3. 出席者； 助言委員  
阿部恭久、大沼 甫、河合光路、菊池康之、齋藤悌二郎、橋爪 朗、  
管理運営委員  
大西 明、加藤幾芳、田中 一、能登 宏  
オブザーバー  
天道義彦、平林義治、手塚洋一

4. 議 事；

(1) 核データ国際ネットワークについて；

昨年春からの核データ国際ネットワークに関するIAEAを中心とした議論の経過と我々のグループ(JCNRG)からの報告書について報告(加藤)があり、補足説明(菊池)を受けた後、以下の意見交換を行った。

- ・我々のグループの活動は国内で生産されたデータを集めるだけで十分か(河合)
- ・EXFORにはいろいろなタイプのデータが入らない、EXFORを拡張させる努力が必要ではないか(天道、橋爪)
- ・EXFORの利用の仕方も工夫すべき(菊池)
- ・この度のIAEAの報告書の中で、核反応データベースの存在意義や利用についてNuclear Physicsの分野の記載が無い。また、我々のグループはOther Data Centersの中に入っているがその位置付けが不十分ではないか(阿部)

その結果、IAEA報告書“The Nuclear Data Centers Network”へ提出した我々の報告書(Annex 2.10)が了承され、この助言委員会での議論をIAEAに意見として提出することとした。(付属資料参照)

(2) 日本荷電粒子核反応データグループの組織について；

現在のJCNRGの組織と活動状況について報告があり、国際的ネットワーク化の中で国内に於けるJCNRGの組織の在り方が今のままでよいのか、また、NRDFシステムのバージョンアップ、数値データのデータテイキングの改善、NRDFの活用について検討しなければならない問題について説明があった(加藤)。それらについて以下の意見交換があった。

- ・Internetの普及に伴いNRDFについてもInternetによる利用を検討すべき時期に来ている(大沼)
- ・Internetによるデータベース利用は急速に進展しており、遅れを取ると他のデータベースにユーザーを奪われる(菊池)
- ・海外にも公開すべきか。公開の方法としてWWW等がある(天道、阿部)
- ・データベースの公開の際その機密保護が問題になる(菊池、田中)

その結果、JCNRGの組織および活動状況については、これまで通り核理論懇談会・核物理談話会に報告し、NRDFのワークステーションへの移植を検討することとした。

(3) 来年度助言委員について；

助言委員会を以下の原則で

1) データ生産機関から

2) NRDF 開発に関わってこられた方

3) 国内の核データ活動を行っている組織から

委員をお願いし、任期を1年としたい旨説明があり(加藤)、来年度、次の方に助言委員をお願いすることとした。

赤石(核研)

河合(九大)

大沼(東工大)

斎藤(東北大核理研)

千葉(KEK)

石原(東大)

菊池(原研)

森信(九大)

阿部(基研)

田中(札幌学院大)

織原(東北大サイクロ研)

青木(筑波大)

天道(理研)

片山(核研)

野呂(RCNP)

以上

付属資料； IAEA "The Nuclear Data Centers Network" についての意見書

30 March, 1995

We had a meeting of the NRDF advisory committee on 28 March, 1995, and discussed on the nuclear data centers network and on our responsibility and activities in the network. This is a report of the opinions discussed in the meeting for "the Network Document":

1. We support the nuclear data centers network for a world-wide cooperation of nuclear data centers.
2. It is expected that nuclear data will be more and more important in many fields of nuclear science and technology. At present, our NRDF is aimed at an academic-oriented database, though it can of course be utilized for application purposes.
3. In "The Nuclear Data Centers Network"(pp.1~2) of the Network Document, we cannot find no expressions of importance and scope of nuclear data in academic or scientific usage. We hope that academic or scientific purposes of nuclear data should be mentioned in the document.
4. Many centers other than four "Core Nuclear Data Centers" are included in "Other Nuclear Data Centers." Explanation of "Other Nuclear Data Centers" seems to be too brief. For further developments of regional and national activities of "Other Nuclear Data Centers", we hope that "the Network Document" gives more explicit and detailed explanation of present and further roles of "Other Nuclear Data Centers" with appreciation.